

意見書

(外国人と一緒に生活する社会をどうつくるのか、
つくるために何が必要かについて書いています。)

2021年11月

外国人との共生社会の実現のための有識者会議

外国人と一緒に生活する社会をどうつくるのか

(3つのビジョン＜＝将来、こうなっていきたいと考えていること＞)

みんなが、国や文化などに違いがあることを認め、一緒に生活する社会。この目標はSDGsのルールなどをもとに、決めました。

安全で、安心できる社会

外国人と一緒に生活する社会。みんなが、安全で安心して生活できる社会。

外国人と一緒に生活する社会をどうつくるのか (3つのビジョン)

いろいろな国の人が 住む元気な社会

国や文化の違う人みんなが社会に参加し、能力をしっかりと出せる、元気な社会。

尊厳と人権を 大切にする社会

みんなが尊厳＜＝人が人らしく生きることが出来る権利＞と人権＜＝人として生まれたときから持っている自由などの権利＞を大切にする。差別と偏見＜＝正しくない情報でだれかのことを悪く言うこと＞のない社会。

外国人と一緒に生活する社会を3つのビジョンのようにするために、 必要な4つの大切なこと

外国人と一緒に生活する社会を3つのビジョンのようにするために、必要となる4つの大切なことが
下に書いてあります。

※ 「日本の国籍を持っても、父か母が外国出身の人」にもやさしい制度をつくる必要があります。

1 外国人がもっと社会に参加できるように、日本語などを勉強できる機会をつくる
必要があります。

2 外国人へもっと情報を伝える必要があります。外国人がいろいろなことを相談で
けるようにする必要があります。

3 それぞれの人の生活に合わせて助ける必要があります。

4 すべての人が生活しやすいしくみをつくる必要があります。



次のことを国にお願いします。外国人のことを正しく知ってください。外国人と一緒に生活する社会を
どうつくるのか、つくるために何をするのか決めてください。それを何年後かにできるような計画をつ
くってください。計画にはK P I（Key Performance Indicators、成果指標）＜＝やりたいことが
どのくらいできたかが、数字などでわかります＞を付けてください。

在留外国人 <= 日本に住んでいる外国人> がどう変わったか①

在留外国人が今どうなっているか

在留外国人の数

約289万人（2020年12月の数）
【2019年12月の数が今までで一番多い】

日本の人口

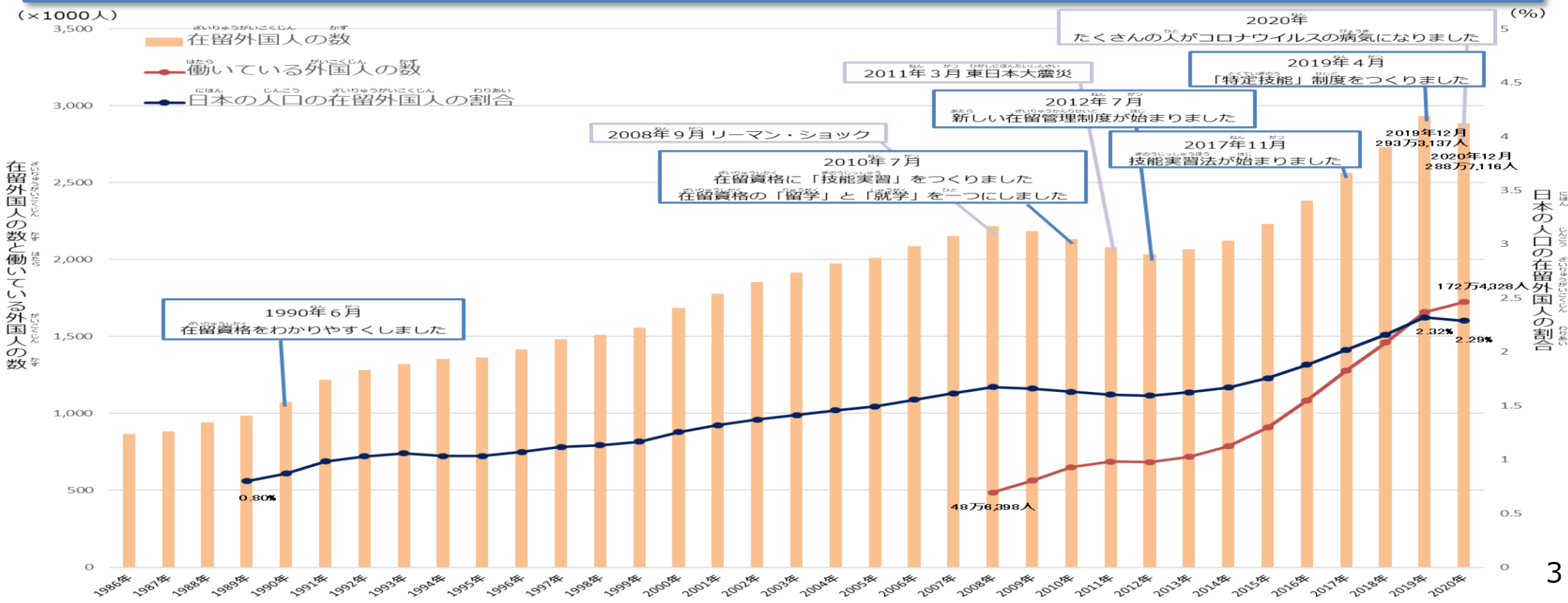
約1億2,623万人（2020年10月1日の数）

日本の人口のうち在留外国人の割合

2.29%（2020年の数）【2019年の数が今までで一番多い】

働いている外国人の数

約172万人（2020年10月の数）
【2020年10月の数が今までで一番多い】



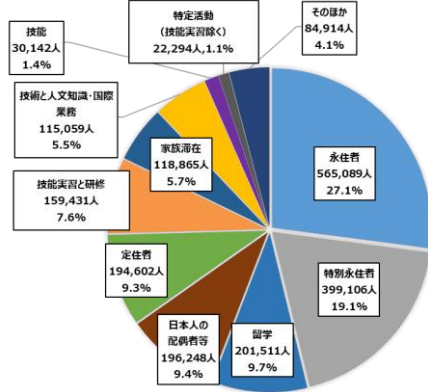
在留外国人がどう変わったのか②

在留外国人の数や割合がどう変わったのか

在留資格

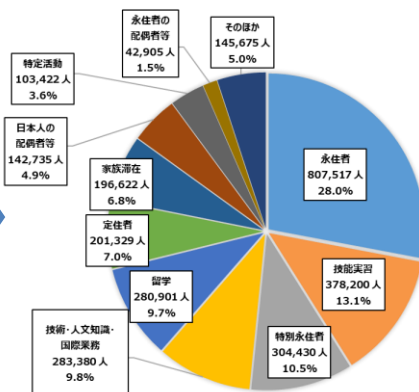
2010年

登録している外国人の数：208万7,261人



2020年

在留外国人の数：288万7,116人

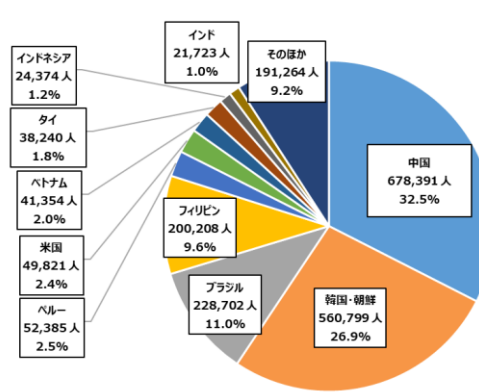


- 在留外国人の約25%が「永住者」です。昔から割合(%)は変わっていません。
- 「技能実習」と「技術・人文知識・国際業務」がとて多くなりました。

国籍・地域

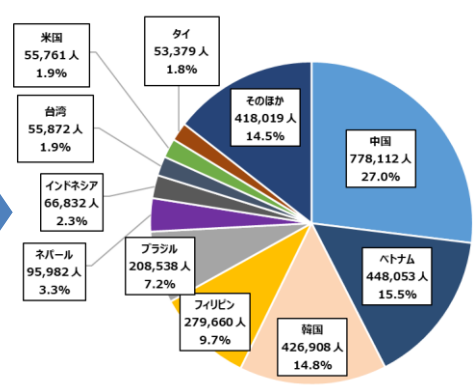
2010年

登録している外国人の数：208万7,261人



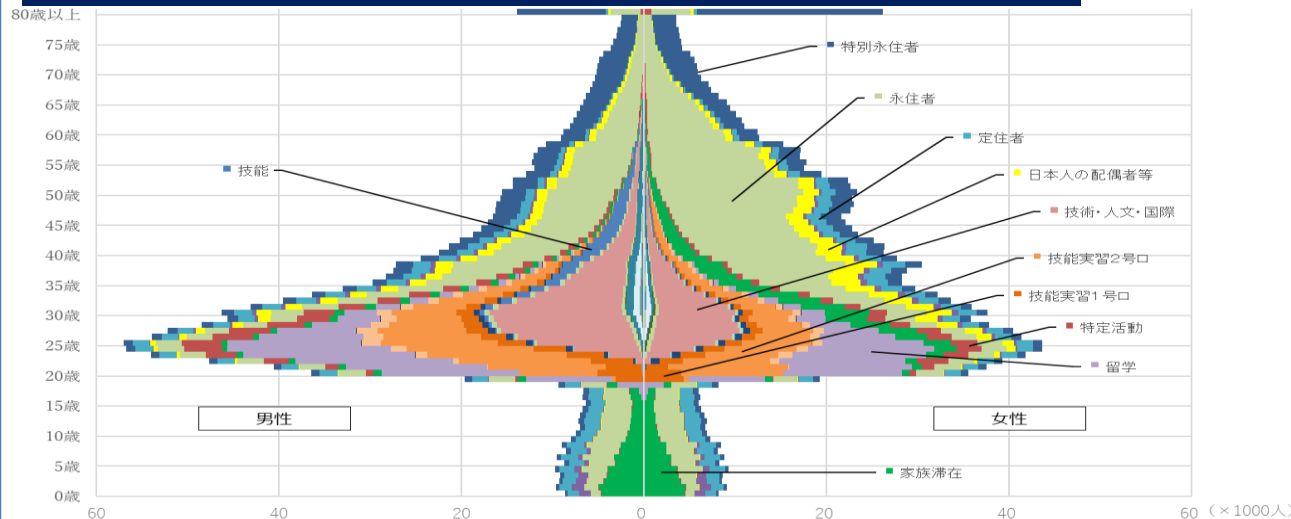
2020年

在留外国人の数：288万7,116人



- 「韓国」と「朝鮮」、「ブラジル」の人の数が少なくなりました。
- 「ベトナム」の人の数がとて多くなりました。

「男性か女性か」、「何歳か」、「在留資格は何か」



- 20歳から29歳までの人は「留学」、「技能実習」、「技術・人文知識・国際業務」の割合が多いです。
- 45歳から65歳くらいの女性は「永住者」が60%を越えています。

外国人がもっと社会に参加できるように、 日本語などを勉強できる機会をつくる必要があります。(大切なこと1)

今どうなっているかと何が問題になっているか

外国人が日本語を勉強できる機会について

- 日本語教室がない市や区、町、村に住んでいる外国人は約58万人います。
(2020年11月の数です)
→日本語を勉強できる機会が少ないです。
- 生活オリエンテーション<=外国人に日本での習慣や制度について教えます>を住んでいるまちの役所がやっていない場合もあります。住む地域によって、教えることが違う場合もあります。
→日本の習慣や制度を知っている外国人と知らない外国人がいます。

自分の生活に合った日本語の勉強について

- 外国人が自分の生活で、どれくらい日本語を勉強すればいいのかが目安がありません。
→外国人が自分の生活に合った日本語を勉強することが難しいです。

日本語の先生の実力について

- 日本語を教えるのが上手い先生と上手くない先生がいます。
- 日本語の先生が仕事に合った十分なお金をもらっていません。そのため、日本語の先生を長く続けることが難しいです。
→日本語の先生が上手く教えることができるようにする必要があります。
日本語の先生を多くして、先生を長く続けることができるようにする必要があります。

これから何をやる必要があるか

生活に必要な日本語や日本の習慣などを勉強できるようにすることについて

【外国人が生活に必要な日本語などを勉強できるようにするために必要なこと】

- 生活に必要な日本語を勉強できる機会をつくること。生活オリエンテーションを受けることができる機会をつくること。
 - 在留資格の手続のときなどに、日本語の勉強などについての情報を伝えること。
 - 外国人が日本語を勉強するための計画や教科書をつくること。インターネットを使って勉強できることなどを考えること。
- これらについて、出入国在留管理庁や国のほかの役所が一緒に考えること。

【自分の生活に合った日本語の勉強ができるようにするために必要なこと】

- 外国人が自分に合った日本語の学校を選ぶことができるようにすること。「日本語教育の参照枠」<=日本語がどのくらいできるかの目安>を使うこと。
どの学校がどのくらい難しい日本語を教えるのかがわかるようにすること。

【日本語の先生が上手く教えることができるようにするために必要なこと、日本語の先生を多くするために必要なこと】

- 「公認日本語教師(この名前は変わることがあります)」という制度をつくること。日本語の先生を長く続けることができるようにすること。

外国人へもっと情報を伝える必要があります。

外国人がいろいろなことを相談できるようにする必要があります。（大切なこと2）

今どうなっているかと何が問題になっているか

外国人に伝える情報について

- 国の役所がやっていること（コロナウイルスで生活に困っている在留外国人を助けることなど）の情報を出しています。しかし、外国人が必要な情報をすぐに見つけることは難しいです。
- 国の役所が情報を伝える方法と、外国人が情報を知る方法が違います。外国人が必要な情報を知ることができていません。
→外国人が困っているとき、すぐにわかることができる方法で情報を伝えていません。

外国人の相談を受ける場所について

- いろいろな国からたくさんの方が日本に来て住んでいます。言葉がわかる人を探すことが難しいです。
- 外国人受入環境整備交付金＜＝役所が外国人のために使うお金。日本語以外の言葉でも情報を伝えたり、相談ができるようにします＞が地域に合うように使われていません。
- 外国人は多くのことです。役所などが助けることが必要です。
- 役所の方が日本語をあまり覚えていない外国人と話をすることに困っています。
→外国人が困っているとき、簡単に相談できる場所が少ないです。

これから何を必要があるか

外国人が必要な情報をすぐに見ることや相談をすぐに行うことができるようにすることについて

【外国人にわかりやすい情報を伝えるために必要なこと】

- 何を伝えるか考えること。
 - ・ 伝える情報のルールを決めること。
- どう伝えるか考えること。
 - ・ 字のほかに動画や絵などでも情報を伝えること。
- 情報を伝える方法を考えること。
 - ・ それぞれに合った情報をマイナポータル＜＝インターネットで役所の手続きができたり、役所が出した情報を見ることができます。国がやっています。＞を使って伝えること。

【外国人が安心して相談できる場所をつくるために必要なこと】

- 外国人がわかる言葉でも相談できる場所を助けること。
 - ・ 外国人受入環境整備交付金をもっと使うことができるようにルールを変えること。外国人がわかる言葉でも相談できる場所が増えるように助けること。
- まちの役所などと一緒に外国人を助けること。外国人を助けている団体や人などと一緒に外国人を助けること。
 - ・ 外国人在留支援センター（F R E S C）と同じように、多くのことを一度に、相談できる場所をつくること。
 - ・ 役所以外の外国人を助ける団体や人などから、国からの役に立つ情報を、外国人に伝えてもらうこと。外国人が困っていることを、すぐに正しく知ることができるようにすること。

それぞれの人の生活に合わせて助ける必要があります。(大切なこと3)

今どうなっているかと何が問題になっているか

今の生活に合った手伝い

今の生活に合った手伝いをする必要があります。学校のことや仕事のことを助ける必要があります。

生活が変わるときに合った手伝い

学校に行くとき、仕事をするときなど、生活が変わるときに合った手伝いをする必要があります。

- 学校に入った、会社に入ったなど、生活が変わるときに困ることがあります。

(たとえば)

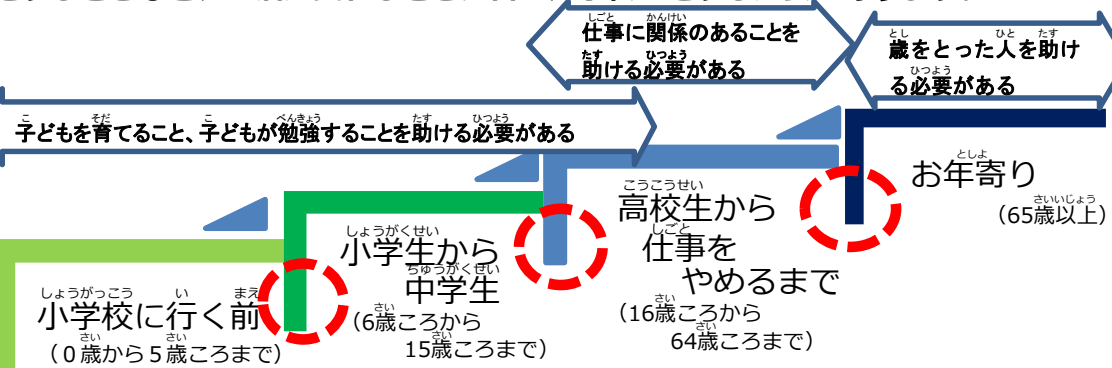
- ・すべての高校生などの1.3%が学校をやめています。日本語の勉強が必要な外国人の高校生などは、9.6%が学校をやめています。

※障害のある人が通う学校は入れていません。

- 今の生活に合った手伝いをもっと必要です。

→外国人が困っていることを知ることができていません。

→生活が変わるときに助けることも大切です。



これから何をする必要があるか

外国人のことを知ること、今の生活や生活が変わるときに合った手伝いをするについて

【「小学校に行く前」と「小学生から中学生」の外国人、「高校生から仕事をやめるまで」になったばかりの外国人を助けるために必要なこと(赤ちゃんができた、赤ちゃんを産んだ、子どもを育てる、学校に入るときなど)】

- 外国人の親と子どもが、近所の人と話したりできるように助けること。助けるために外国人に何が必要かを調べること。子どもを育てやすいようにすること。
- 外国人の子どもが学校に行きやすくするために今の状態を調べること。小学校に行く前の子どもが小学校に入る準備をする場所づくりを助けること。
- 外国人がもっと勉強したいと思ってもらうために、勉強して良い生活や仕事をしている外国人のことなどを伝えること。外国人の子どもが、将来やりたい仕事ができるようにするため、いろいろなことを勉強できるように助けること。(決まった数の外国人が、高校に入ることができるようにすること。高校に入るテストを受けるときに助ける。)

【「高校生から仕事をやめるまで」の外国人を助けるために必要なこと(仕事のことなど)】

- やさしい日本語で話ができる人を多くすること。外国人と日本人が言いたいことを伝えることができるようにすること。
- 会社で働く外国人が研修などを受けることができるようにすること。外国人が働く会社が研修などのお金を出すこと。専門の技術などを持ってもらって、外国人が長く働くことができるようにすること。

【「お年寄り」の外国人を助けるために必要なこと(介護のことなど)】

- 外国人が今どうなっているかや困っていることを調べること。外国人と日本人のすべての人からわかってもらうことができるようなくみを考えること。

すべての人が生活しやすいしくみをつくる必要があります。(大切なこと4)

いまま 今どうなっているかと何が問題になっているか

1 がいこくじん いっしょ せいかつ しゃかい 外国人と一緒に生活できる社会にすることについて

- がいこう 学校、かいしゃ 会社、ちいき 地域などでがいこくじん 外国人へのさべつ 差別とへんけん 偏見があります。

2 にほん しゃかい 日本の社会のルールなどについて

- にほん 日本文化やしゅうくわん 習慣、ぜいきん 税金やしゃかいほけん 社会保険などのルールを知らません。そのため、ルールを守ることができないがいこくじん 外国人がいます。

3 がいこくじん せいかつ 外国人の生活がどうなっているかについて

- くに 国の役所が情報を集めています。今は「国籍」をきいていないので、外国人の生活を知ることができません。

→ すべての人が国や文化の違う人のことをわかって大事にする。それぞれの能力をしっかりと出すことができる社会にしなければいけません。

4 がいこくじん てつだ だんたい ひと いっしょ じょうほう ぶんり 外国人を手伝うことや在留を管理するために情報を集めたり、関係する役所などが一緒にやることについて

- 外国人を手伝う団体や人などと一緒に情報を集めることがあまりできません。
- 外国人に、外国人を手伝う団体や役所のことを、教える人を増やすことが必要です。
- 出入国在留管理庁がマイナンバー制度を使って、情報を早く集めることが必要です。外国人の生活を便利にしたり、在留の管理を正しくするためです。

5 がいこくじん しゃかい さんか 外国人がもっと社会に参加することについて

- 外国人が社会に参加し、能力をしっかりと出すことができるように、外国人を助けることが必要です。
- 社会に参加したいと思っている外国人に、何かができるところを用意する必要があります。

これから何をする必要があるか

外国人と一緒に生活できる社会にするために、みんなが考えていることを変えて、社会のルールを外国人に知ってもらふ機会をつくることについて

【外国人が生活しやすい社会にするように、みんなが考えていくために必要なこと】

- 外国人が生活しやすい社会について考える期間をつくって、みんなで話したり、考えること。
- 幼稚園や学校などで、外国人と一緒に生活する社会を子どもに教えることについて、考えること。

【社会のルールなどを知ってもらふための機会をつくるために必要なこと】

- 外国人に生活オリエンテーションをすること。税金や社会保険など、必ずしないといけないことを教えること。

【国の役所が外国人の生活を正しく知るために必要なこと】

- 国の役所が集める情報を増やし、外国人の生活を正しく知るができるようにすること。集めた情報を使って必要なことに取り組んだり、何がどのくらい進んでいるかをK P Iで出すことができるようにすること。

【外国人が生活しやすい社会をつくるために、国は必要な情報をたくさん集めることと

国の役所などいろいろな人がもっと一緒に協力するために必要なこと】

- 役所以外の外国人を手伝う人などに、情報やお金などを出すことを考えること。
- 外国人を助けることができる人を増やすこと。助けることができる人なのかがわかるしくみをつくること。